おり、県北の有明・鹿本・菊池・阿蘇圏域、および県央の上益城・宇城・八代圏域には口腔外科の専門医を擁する地域拠点病院は一つもありません。今後、当科で多くの口腔外科専門医と指導医を養成し、地域拠点病院に大学病院と連携のとれる口腔外科医のポストを増やしたいと考えています。熊本県における口腔外科の緊密な医療ネットワークを構築することは、必ず医科歯科連携の強化と地域住民の健康保持の増進に寄与するものと確信しています。

最後になりますが、これまで臨床と研究の両面で多方面の先生方に大変お世話になっております。これからも、やる気に満ちた多くの若手医局員と一丸となって前任の篠原教授が築かれた皆様方との信頼関係と連携体制を引き継ぎ、発展的に継承していきたいと思っております。改めまして、ご指導とご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。

熊本大学大学院生命科学研究部臨床病態解析学分野教授就任のご挨拶

大学院生命科学研究部
臨床病態解析学分野教授
松井　啓隆

肥後医育振興会会員のみなさま、並びに本誌をご覧のみなさま、初めまして。平成二十七年三月より大学院生命科学研究部臨床病態解析学分野に着任いたしました、松井啓隆です。また臨床面では、熊本大学医学部附属病院中央検査部、および輸血・細胞治療部の部長職を拝命いたしました。これからみなさまには様々にお世話になることと存じますが、ご高配賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

私は平成七年に浜松医科大学を卒業後、血液内科医として静岡県内の地域医療に従事してまいりました。ちょうど私が臨床医としての研修を積んでいた時期、ビタミンA誘導体（ATRA）による急性前骨髄性白血病の分化誘導療法が導入され、その治療効果に驚くとともに、白血病細胞が形態異常を有したまま好中球に分化していく様に大いなる興味を抱きました。これをきっかけに、分子生物学的手法で造血器悪性腫瘍を理解したいという機運が高まり、平成十三年からは広島大学原爆放射線医科学研究所に大学院生として移るとともに、造血器悪性腫瘍の発症メカニズムに関する基礎研究をスタートさせました。

その後長い時間を要しましたが、幸いにしていくつかの研究成果を世に出すことができましたことが、今回私の熊本大学への着任をお認め頂いた背景であろうと受け止め、これからも息の長い研究を継続してまいりたいと切望しております。

さて、自らが置かれた状況でこれまでと大きく異なりますのは、冒頭に記しましたように、このたび附属病院一診療部での管理・統括をお任せいただいた点にあります。本学附属病院中央検査部では、一日平均約二八〇〇本の採血検体を処理し、また心血管系超音波検査や呼吸機能検査をはじめとする生理検査、さらに感染症の診断や予防に不可欠である微生物検査を行うため、四七名の検査技師・専門職員が多忙な毎日を過ごしております。今年度は彼らの活躍の場をより広げ、院内のチーム医療への貢献を更に推進すること、そして学術面の強化を推し進めることなどを課題に挙げ、様々な取り組みに着手していく所存です。

たいへんありがたいことに、本学附属病院中央検査部は本年四月の病院機能評価において、最高評価となるS評価をいただきました。これは前部長の安東由喜雄教授（現神経内科教授）、前副部長の大林光念先生（現保健学科教授）、および池田勝義技師長らの弛まぬ努力の賜物であります。私はこの栄誉を汚すことのないよう、これからの責務を全うしていきたいと思います。ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げ、着任の挨拶に代えさせていただきます。

熊本大学大学院生命科学研究部心臓血管外科学分野教授就任のご挨拶
―心臓血管外科学の新しい展開を目指して―

大学院生命科学研究部
心臓血管外科学分野教授
福井　寿啓

平成二十七年四月一日付けで心臓血管外科学教授を拝命いたしました福井寿啓と申します。私は、平成六年に和歌山県立医科大学を卒業した後、大阪市立大学第二外科学教室に入局いたしました。様々な外科研修を積む中で、心臓血管外科に最も興味を持ち、現在まで心臓血管外科の臨床一筋でやってまいりました。幸いにして前任地であります東京の榊原記念病院にてたくさんの手術症例を経験させていただくことができましたので、これからは熊本県の患者さんに貢献すべく努力を惜しまず邁進していく所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

心臓血管外科手術は全国で合計約六万件以上が行われており、年々増加傾向にあります。その原因は、動脈硬化性疾患が増加していることと高齢化社会の中で